

## 住民が要望する防災情報の提供に向けて

兵庫県神戸県民局神戸土木事務所 幸田修，澤井伸明  
(財)砂防・地すべり技術センター ○小出哲也，嶋大尚，菊井稔宏

### 1 はじめに

近年頻発している土砂災害から住民の生命を守るためには、行政機関と連携した地域の防災活動が重要になる。地域の防災活動を行うためには、住民が自ら地域の危険性を把握し、豪雨時等に行政から提供される警戒情報等を収集し、判断する知識が求められる。

土砂災害に関する情報で住民が自発的に行動し、危険が回避された事例もあるが、行政が伝えたい意図が必ずしも住民に的確に伝わっていないことも多い。

このような背景から、土砂災害防災学習会、ワークショップ、意見交換会を開催し、神戸市民が結成している自主防災組織（防災福祉コミュニティ）の方々から意見や要望を伺い、住民が自ら学習するための土砂災害防災学習マニュアルを作成した。

ここでは、土砂災害防災学習会、ワークショップ、意見交換会を通じて得られた住民の意見・要望、ならびに情報分析の課題と対応方法の検討を行った。

### 2 住民との意見交換会の実施

#### 2.1 土砂災害防災学習マニュアルに関する意見交換会の参加者

参加者は、防災福祉コミュニティのリーダーを中心とする9名であり、昨年度からの防災学習会等にも出席している方がほとんどであった。

年齢層は1名を除いて8名が60歳以上、参加者全員が神戸市内の居住年数10年以上の方であった。

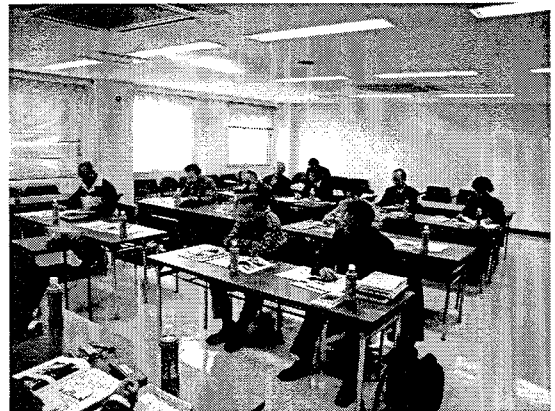


図1 意見交換会の様子

#### 2.2 マニュアルに対する住民の反応

土砂災害防災学習マニュアルは、住民からの要望による骨子（項目）に基づいて、ハード対策の進捗状況が十分でない現状を踏まえ、いかに早期避難してもらうかをコンセプトとする内容とした。

また、土砂災害防災学習マニュアル（案）を作成した段階で意見交換会を実施し、住民から内容に関する意見を抽出した。

住民から出された意見を挙げると、

- ・避難所の開設時期に対する問題点の指摘  
(現在の避難・連絡系統体制では、避難したい時に避難所が開設されない)
- ・土砂災害防止法の基礎調査に関する質問  
(ボーリング等の地質調査を実施するのか)  
等、土砂災害対策への意識が高い意見が出た。

しかし、その他の意見としては、「雨が降ると水路から水が溢れ出して困る」等の身近に起こりえる不便さの改善を求める内容等がほとんどであり、いつ起こるか分からない大規模な土砂災害に対する関心や危機感は少ないことがわかった。

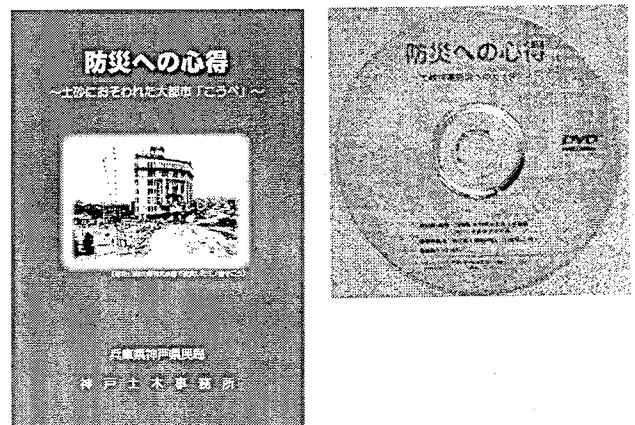


図2 今回作成した土砂災害防災学習マニュアルとDVD

なお、避難所の開設時期の問題に対する解決方法については、「普段から避難所（学校）の行事に参加し、学校の関係者と交流を持っているため、避難所の開設に対する問題はない」という地域内の交流により自主避難の問題を解決している事例もある防災福祉コミュニティから示された。

### 3 提供すべき情報の選定に向けて

意見交換会の出席者のように、神戸での居住年数が長く阪神大水害の被災経験がある方でも、土砂災害対策の重要性を考え、議論するだけの知識と情報が十分に伝わっていなかったことを踏まえると、一般住民にはさらに分かりやすく適確な情報の提供が必要である。

したがって、これからは行政が伝えたい情報を提供するのではなく、アンケート調査等によって、住民に理解をしてもらうために提供すべき情報を選定したうえで提供する必要がある。

### 4 今後の課題と対応方法

今後、提供すべき情報を検討するためには、土砂災害対策について理解している人、理解が不足している人の持っている情報の違いを調査する必要がある。

どのような情報をどの程度の深さで把握し、どのような情報を重視している人が、土砂災害に対する関心を持ち、土砂災害対策に対して理解を示す結果になるのかを調べ、今後提供していく情報の種類や質について検討することが必要になる。

検討方法は、アンケート対象者が持つ情報の質・深さと土砂災害対策の認識度との関係を調べ、どう

いう情報を提供すれば土砂災害対策への理解を深めてもらうことができるのかを分析する。分析結果を基に、土砂災害に対する理解に役立つ情報を積極的に発信し、分かりやすく伝えることが必要である。そのためには、どのような図や説明が分かりやすいのか等も合わせて調査し、効率的な情報提供を検討する必要がある。

今後は、土砂災害対策に興味があり、行政が主催する学習会等に参加する住民を対象とするアンケートのみでなく、不特定多数を対象とする「情報と知識に関する理解度と土砂災害対策に対する認識度」等を調査し、情報提供のあり方を検討する。

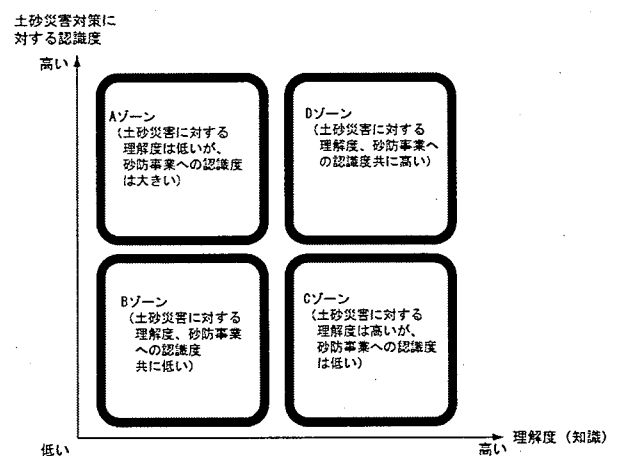


図3 アンケート調査の分析シメージ

表1 アンケートの質問と深さの例（理解度の深さ）

Q.砂防えん堤について		Q.避難方法・手順について	
問1	砂防えん堤を知っている	問1	避難所の場所を知っている
問2	砂防えん堤を見たことがある	問2	避難時の持ち物を準備している
問3	砂防えん堤の管理者や設置年月を知っている	問3	避難する際の経路を考えている
問4	砂防えん堤の役割を知っている	問4	避難する際の目安雨量を知っている
Q.過去の災害について		Q.事業に対する意識	
問1	過去に起こった災害を知っている	問1	無関心
問2	報道によって場所と被害の規模を知っている	問2	すべきでない
問3	被災経験者などから詳細を聞いたことがある	問3	特別必要性を感じない
問4	自らその地域で起こった災害を経験したことがある	問4	予算があったらする余地がある
		問5	予算の有無にかかわらず早急に実施が必要である